

FENWAL

2017 | 12月期 決算説明会資料

(2017年1月1日～2017年12月31日)

2018年2月22日

日本フェンオール株式会社

証券コード (6870)

Contents

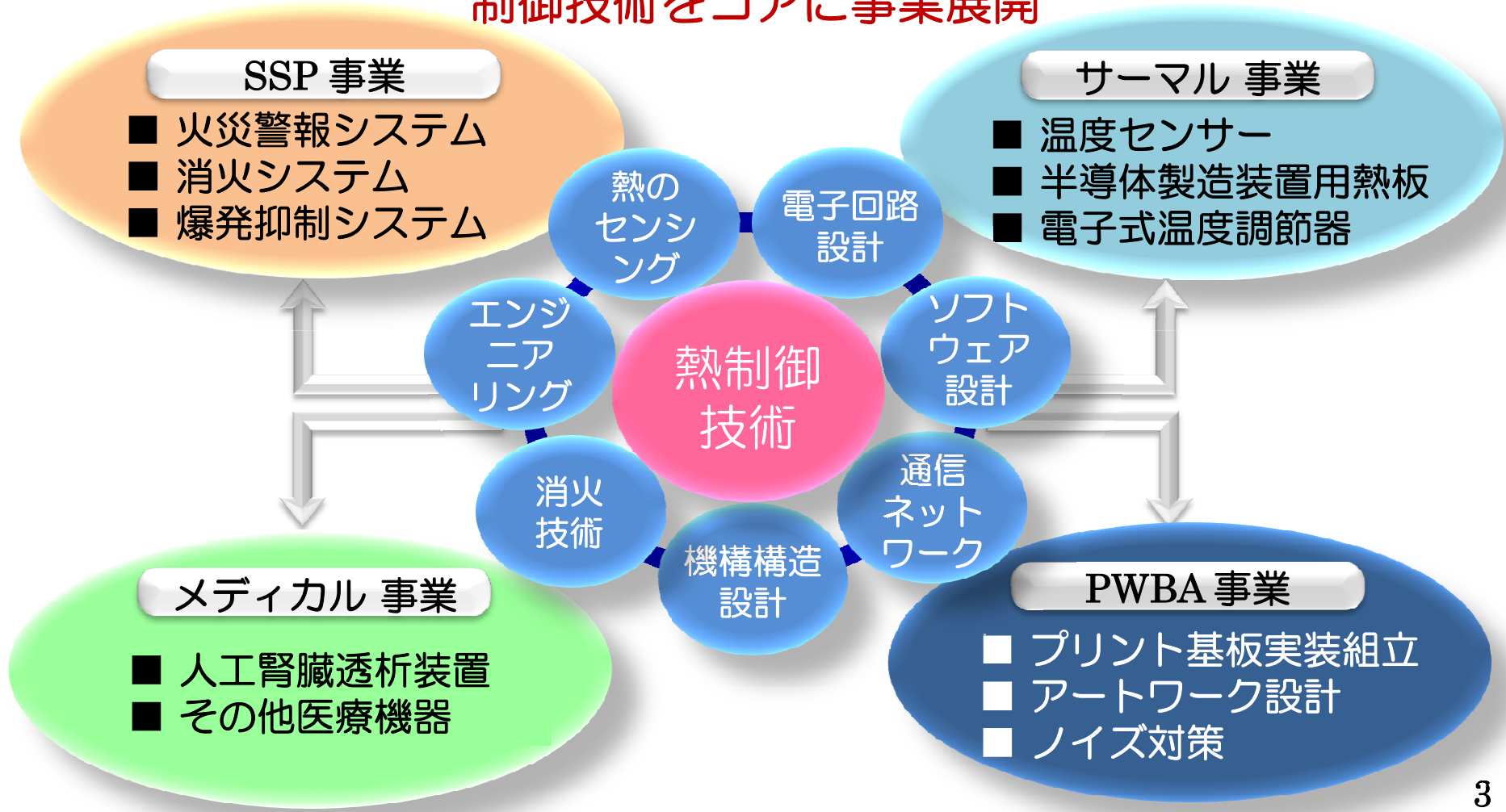
	頁
1. 事業概要	2
2. 2017年 12月期 通期 決算概要	5
セグメント別実績	9
投資・財務概況・経営指標	15
3. 2018年度 通期連結業績見通し	21
2018年度 セグメント別 業績見通し	24
2018年度 配当について	34
4. 中期 3ヶ年経営計画 進捗	36
中期 経営目標・配当政策・投資計画	39

1. 事業概要



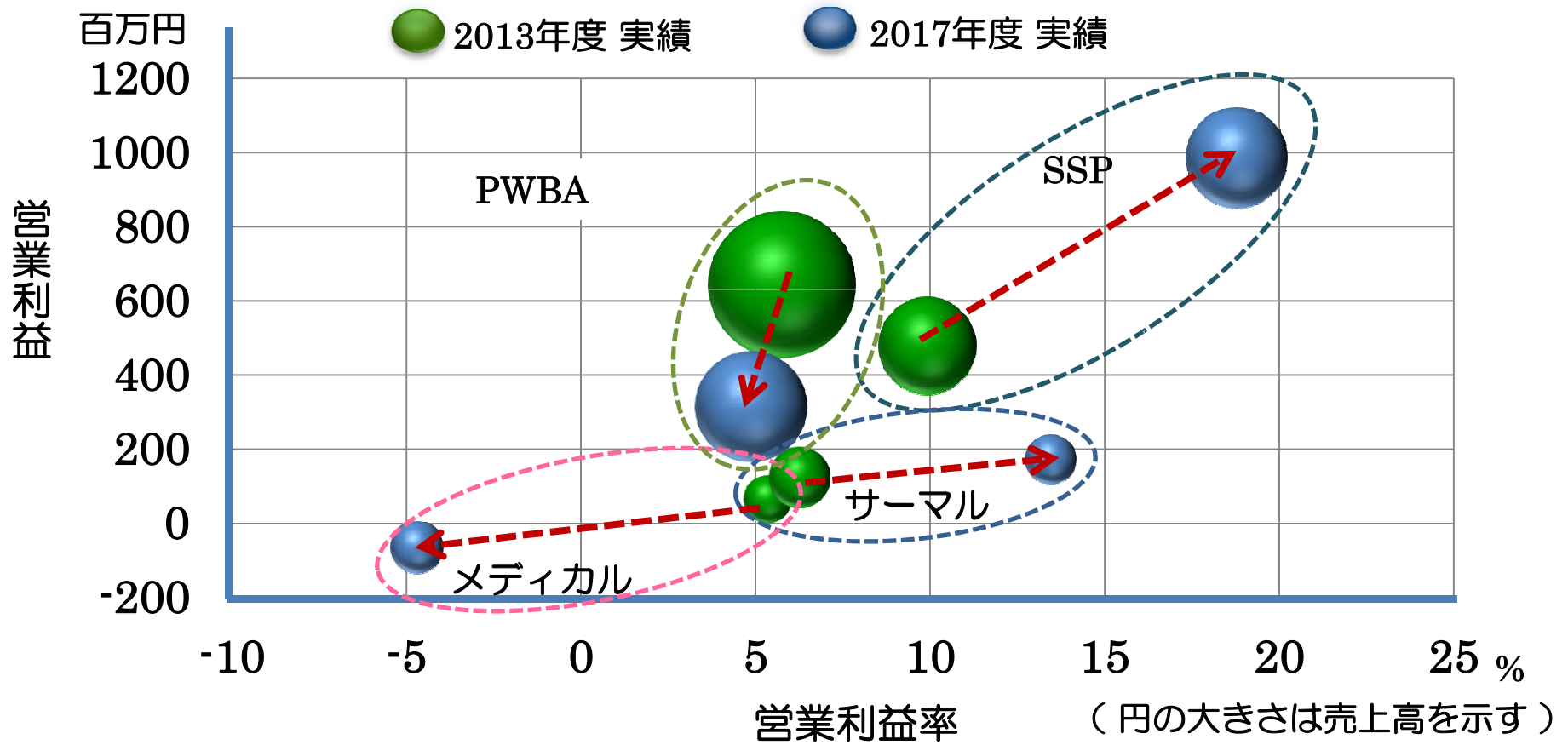
事業構成

制御技術をコアに事業展開





当社事業のポジショニング



2. 2017年12月期 通期 決算概要



2017年度 通期の業績サマリー

前期比 売上高△13.6% 経常利益△4.8% 減収減益

(単位：百万円)

業績項目	当期実績	当期予算		前年実績	
	実績	予算	予算比	実績	前期比
■ 受 注	14,853	17,028	△12.8%	15,464	△4.0%
■ 売 上	14,307	15,864	△9.8%	16,566	△13.6%
■ 売 上 総 利 益	3,440	3,658	△5.9%	3,569	△3.6%
■ 販 管 費	2,037	2,128	△4.3%	2,066	△1.4%
■ 営 業 利 益	1,403	1,529	△8.3%	1,502	△6.6%
■ 営 業 外 損 益	72	40	81.1%	47	53.0%
■ 経 常 利 益	1,476	1,570	△6.0%	1,550	△4.8%
■ 当 期 純 利 益	1,128	1,111	1.5%	1,073	5.2%
■ 1株当り純利益(円)	191.55	188.71	1.5%	182.14	5.2%
■ 平均レート(円)	112.39	100.00	12.4%	110.30	1.9%

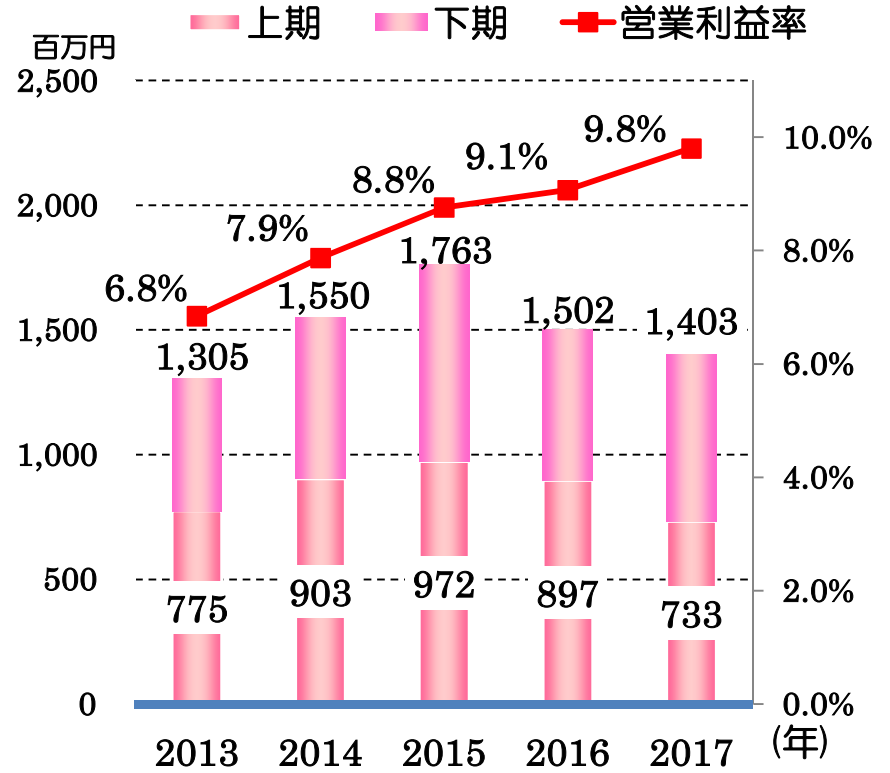
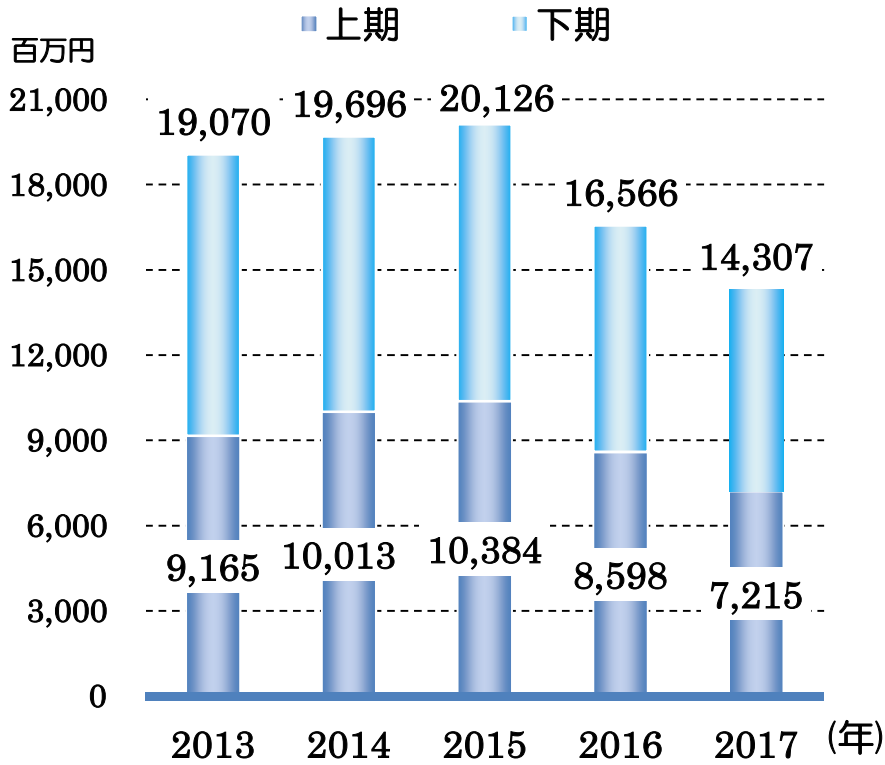


業績推移

売上高減少も高付加価値化により利益率は2013年度比+3%

売上高

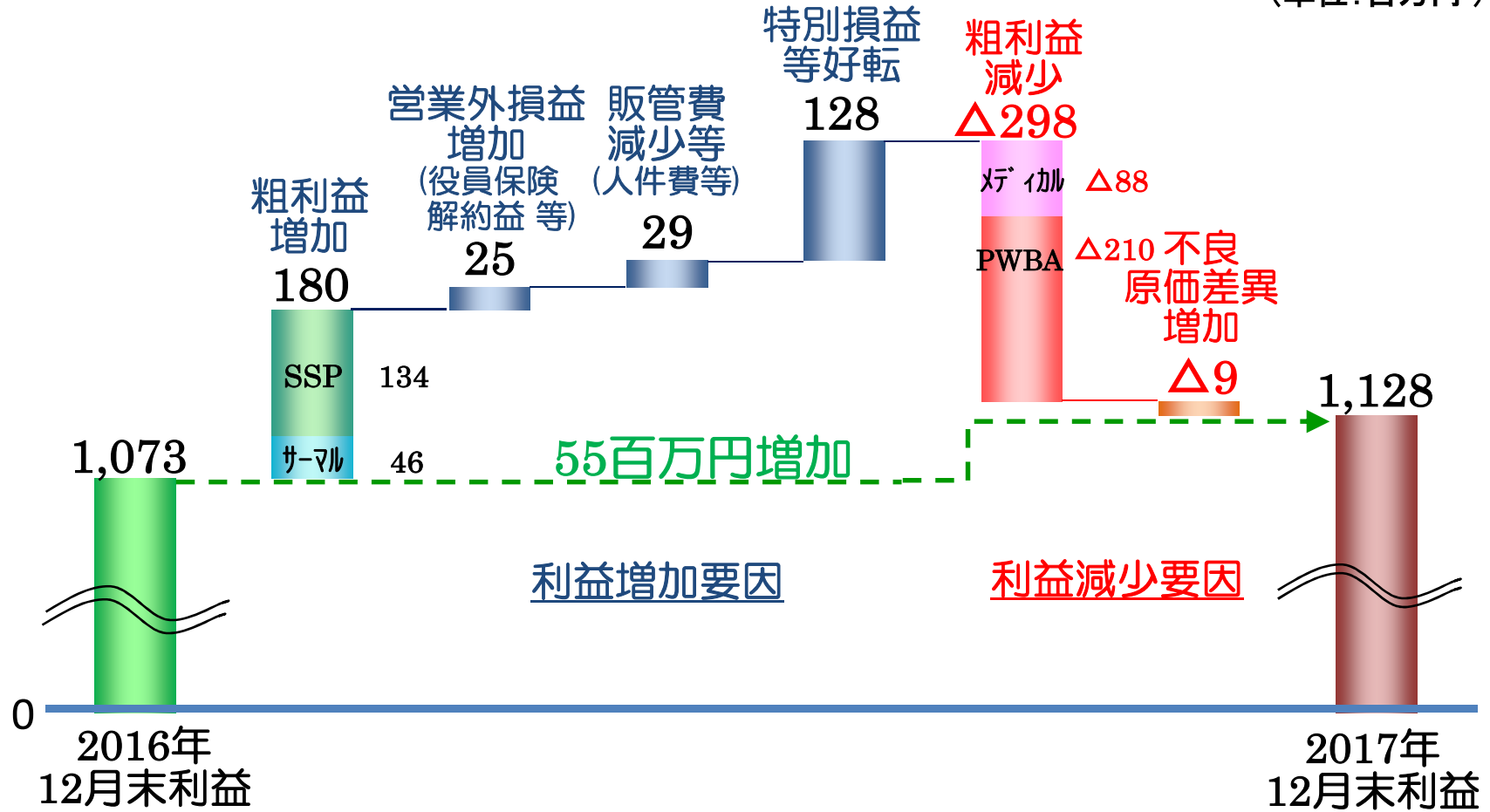
営業利益





前期比 当期純利益増減要因

(単位:百万円)



セグメント別実績

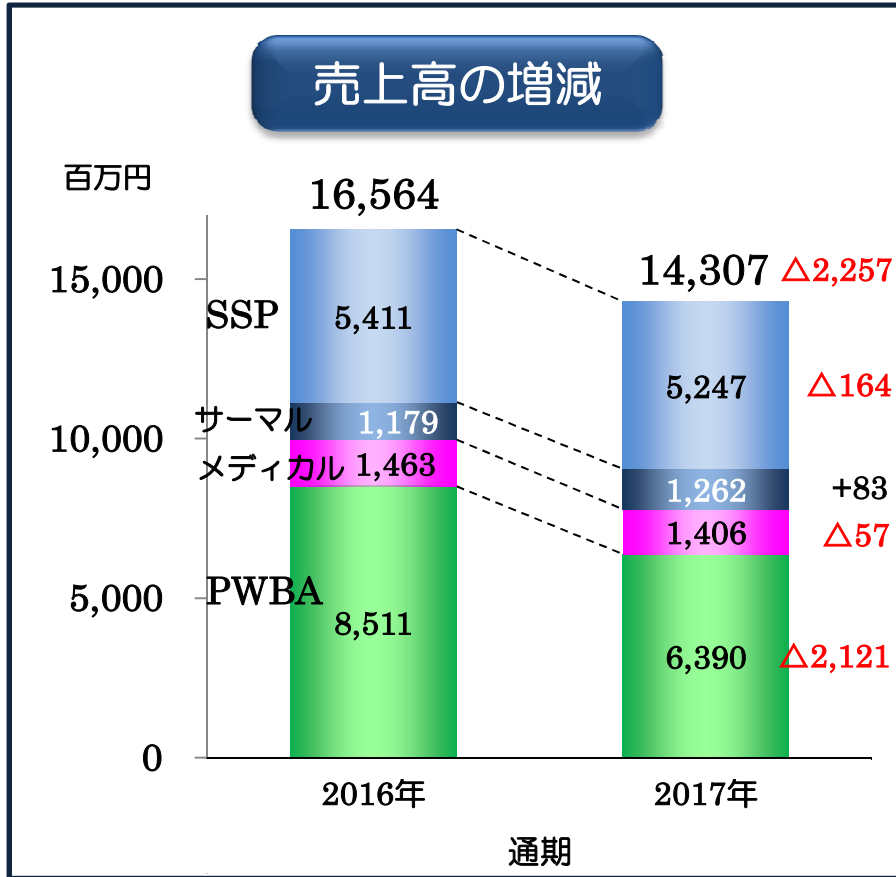


セグメント別業績概要

SSP	減収 増益	売上高 3.0%減少、営業利益 7.3%増加 ■ 基幹産業向け防災設備の施工進捗の遅れ ■ 防災意識の高まりからFシリーズ・IEPが好調
サーマル	増収 増益	売上高 7.0%増加、営業利益 68.3%増加 ■ 半導体製造装置向け製品の増加 ■ サーマル部門もFシリーズが好調で利益率上昇
メディカル	減収 減益	売上高減少、営業赤字 ■ 人工腎臓透析装置の販売増加も価格引下げ ■ 関連の部品販売についても大幅に減少
PWBA	減収 減益	事務機器系取引先への出荷が大幅に減少 ■ 海外売上高前期比27.9%減少 ■ ロボット、医療機器系の出荷は増加



セグメント別増減明細



※全社費用をセグメント別に配賦



売上高増減内容

SSP

- 改修工事 売上高 226百万円 減少
- スプリッター売上高 184百万円 減少
- プラント系 売上高 136百万円 減少
- H2O容器弁売上高 115百万円 増加
- Fシリーズ売上高 124百万円 増加

メディカル

- 海外要素部品 売上高 180百万円 減少
- 透析装置 売上高 211百万円 増加
- 透析装置 粗利益率 1.6ポイント 低下

サーマル

- 熱板 売上高 85百万円 増加
- Fシリーズ売上高 41百万円 増加
- キュア炉 売上高 35百万円 増加
- センサー 売上高 66百万円 減少
- 医療関係 売上高 27百万円 減少

PWBA

- 事務機器売上高 2,121百万円 減少
- 産業用味付売上高 97百万円 増加
- 医療機器売上高 42百万円 増加



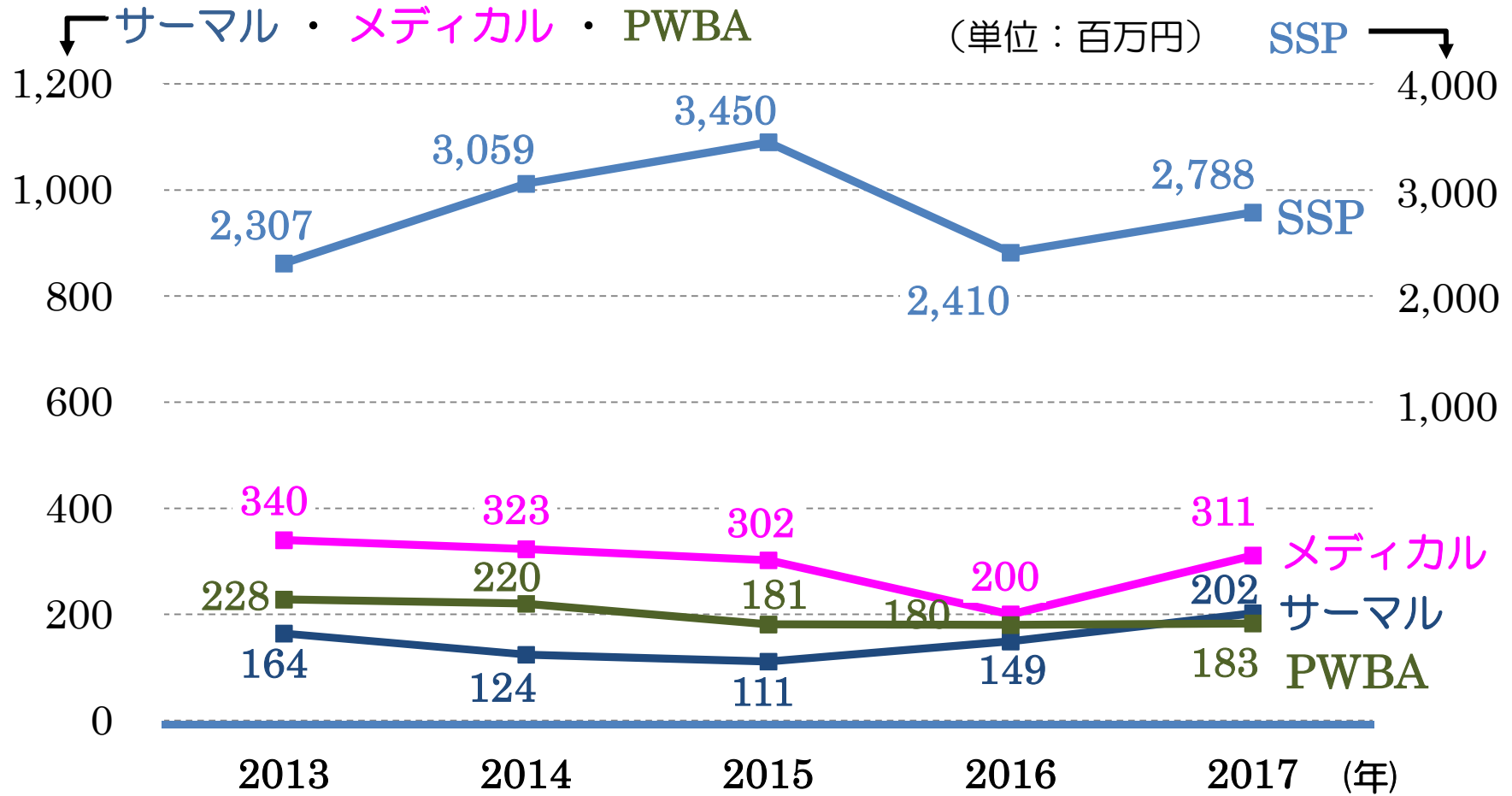
セグメント別売上高・営業利益

(単位：百万円)

セグメント	売上高		営業利益		
	金額	構成比	金額	利益率	構成比
■SSP (火報・消火システム)	5,247	36.7 %	986	18.8 %	70.3 %
■サーマル (温度制御機器)	1,262	8.8 %	170	13.5 %	12.1 %
■メディカル (透析装置)	1,406	9.8 %	△ 66	△ 4.7 %	△ 4.7 %
■PWBA (プリント基板実装)	6,390	44.7 %	313	4.9 %	22.3 %
合 計	14,307	100.0 %	1,403	9.8 %	100.0 %



連結部門別受注残高推移

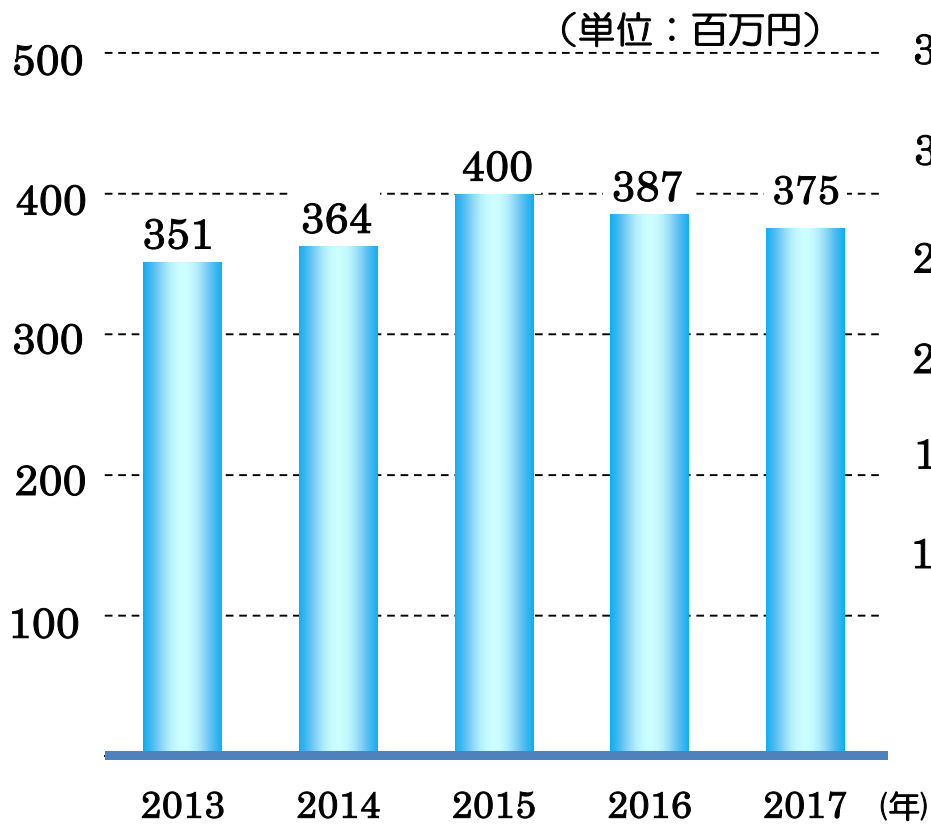


投資・財務概況・経営指標

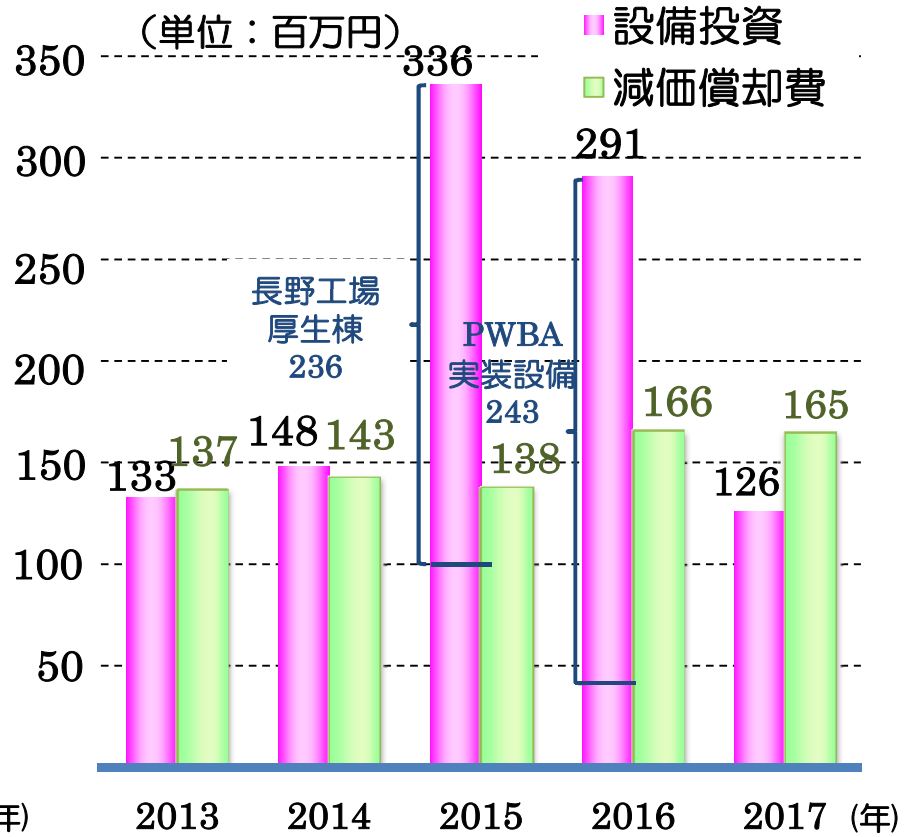


投資概況

研究開発費



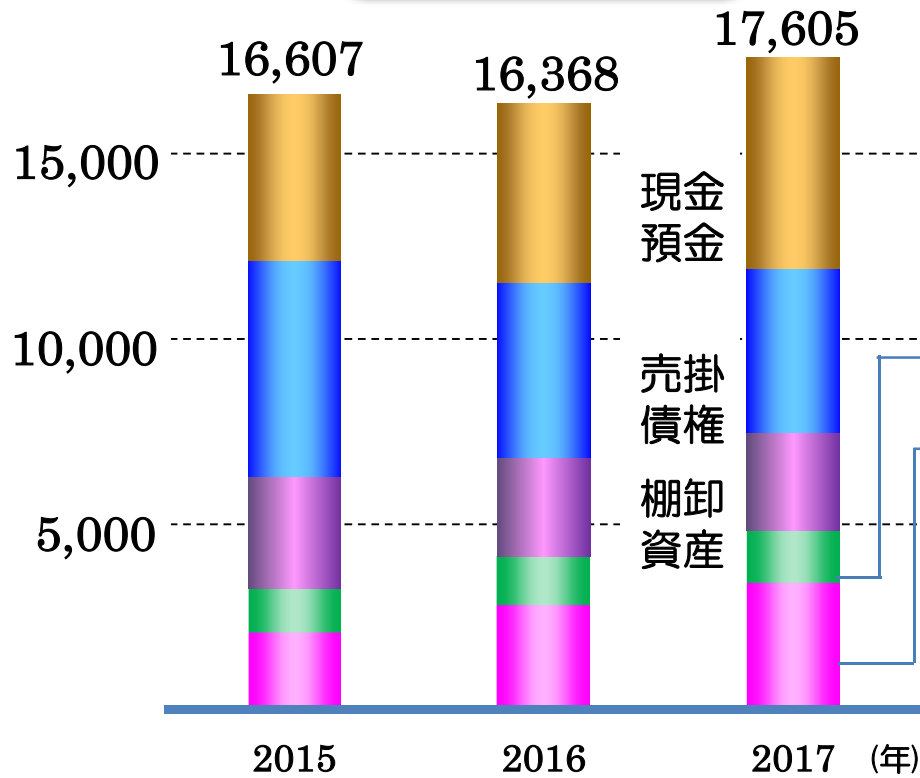
設備投資・減価償却費





連結貸借対照表(資産の部)

資産推移



増減内容

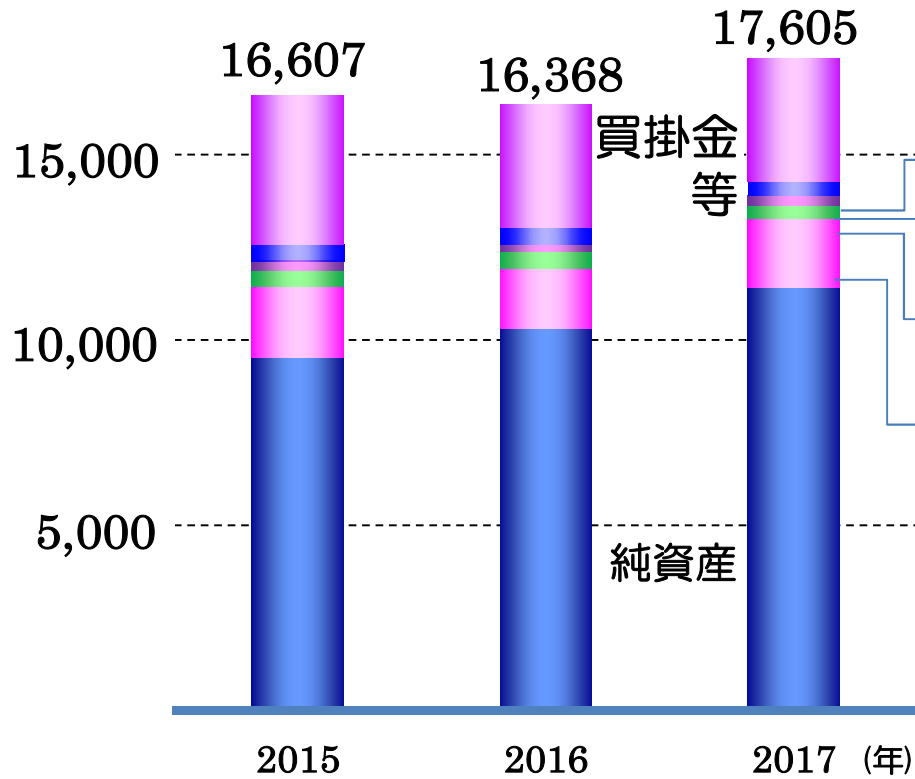
(単位：百万円)

項目	当期	前年度末	増減率
現金預金	5,714	4,851	17.8%
売掛債権	4,423	4,713	△6.2%
棚卸資産	2,638	2,663	△0.9%
固定資産	1,401	1,312	6.7%
投資等	3,352	2,746	22.1%
その他	77	83	△7.2%
合計	17,605	16,368	7.6%



連結貸借対照表(負債・純資産の部)

負債・純資産推移



増減内容

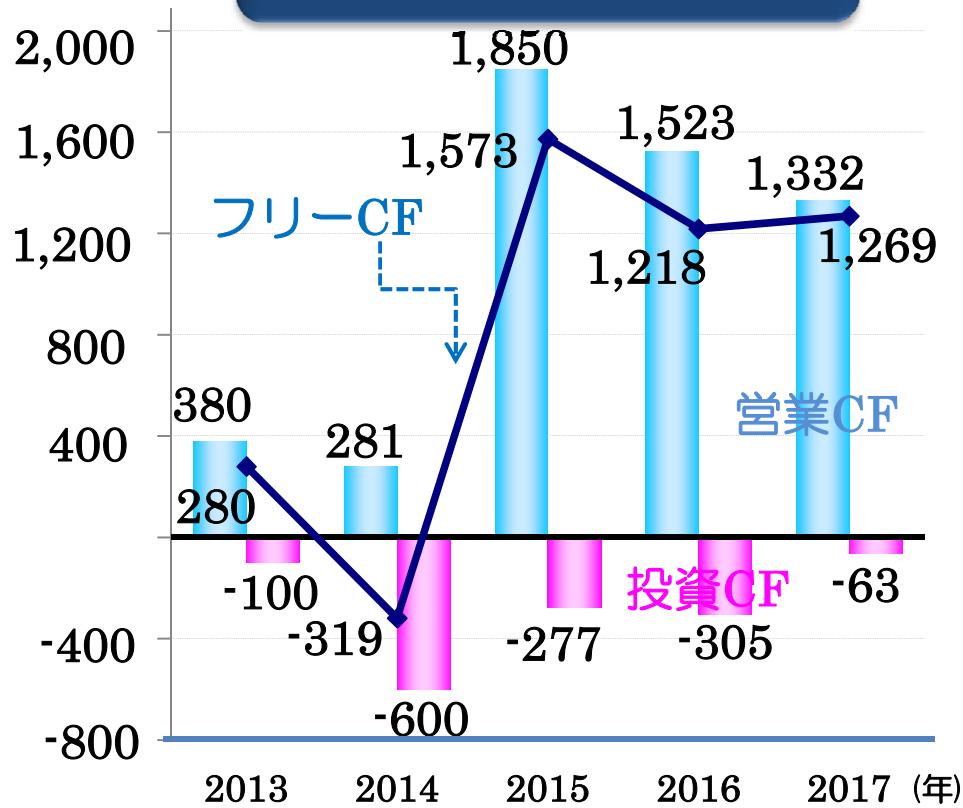
(単位：百万円)

項目	当期	前年度末	増減率
買掛金等	3,339	3,333	0.2%
社債	368	452	△18.8%
未払法人税等	259	203	27.0%
退職給付	357	442	△19.2%
その他	1,856	999	14.2%
純資産	11,426	10,311	10.8%
合計	17,605	16,368	7.6%



キャッシュ・フロー計算書

キャッシュ・フロー推移



増減内容

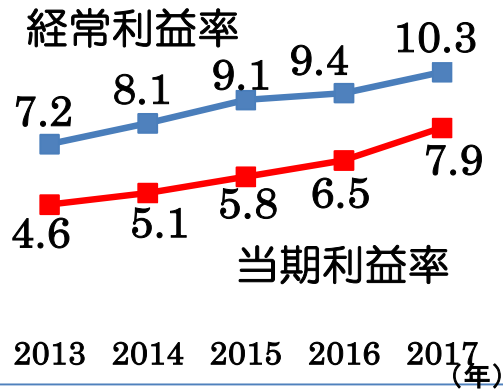
(単位：百万円)

項目	当期	前期	増減率
営業CF	1,332	1,523	△12.5%
投資CF	△63	△305	△79.3%
財務CF	△363	△341	6.5%
換算差額	△43	△27	59.3%
合計	863	850	1.5%
期首残高	4,851	4,002	22.2%
期末残高	5,714	4,851	17.8%
フリーCF	1,269	1,218	4.2%

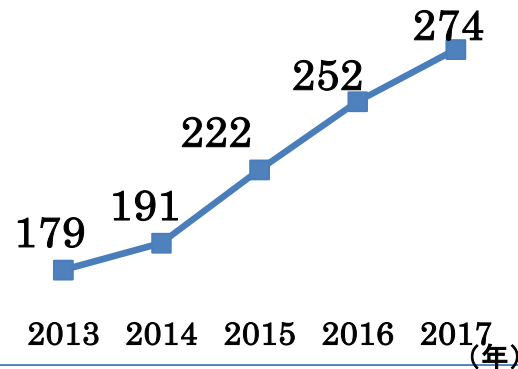


経営指標

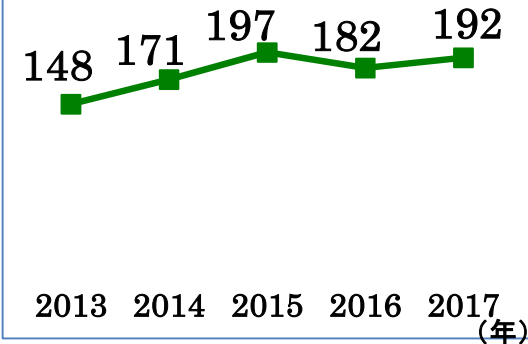
売上高利益率 (%)



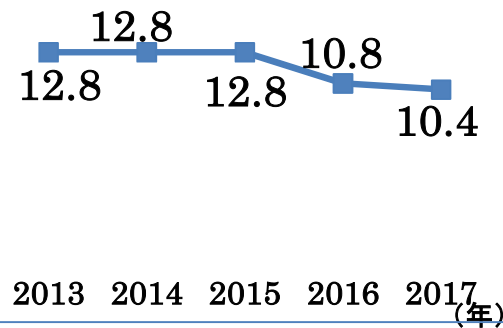
流動比率 (%)



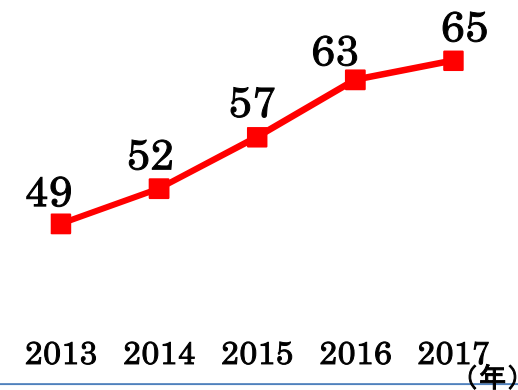
1株当り純利益 (円)



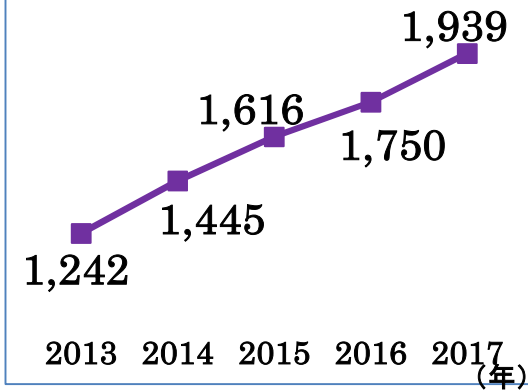
自己資本 当期利益率 (%)



自己資本比率 (%)



1株当り純資産 (円)



3. 2018年度 通期連結業績見通し



2018年度連結計画サマリー（減収増益）

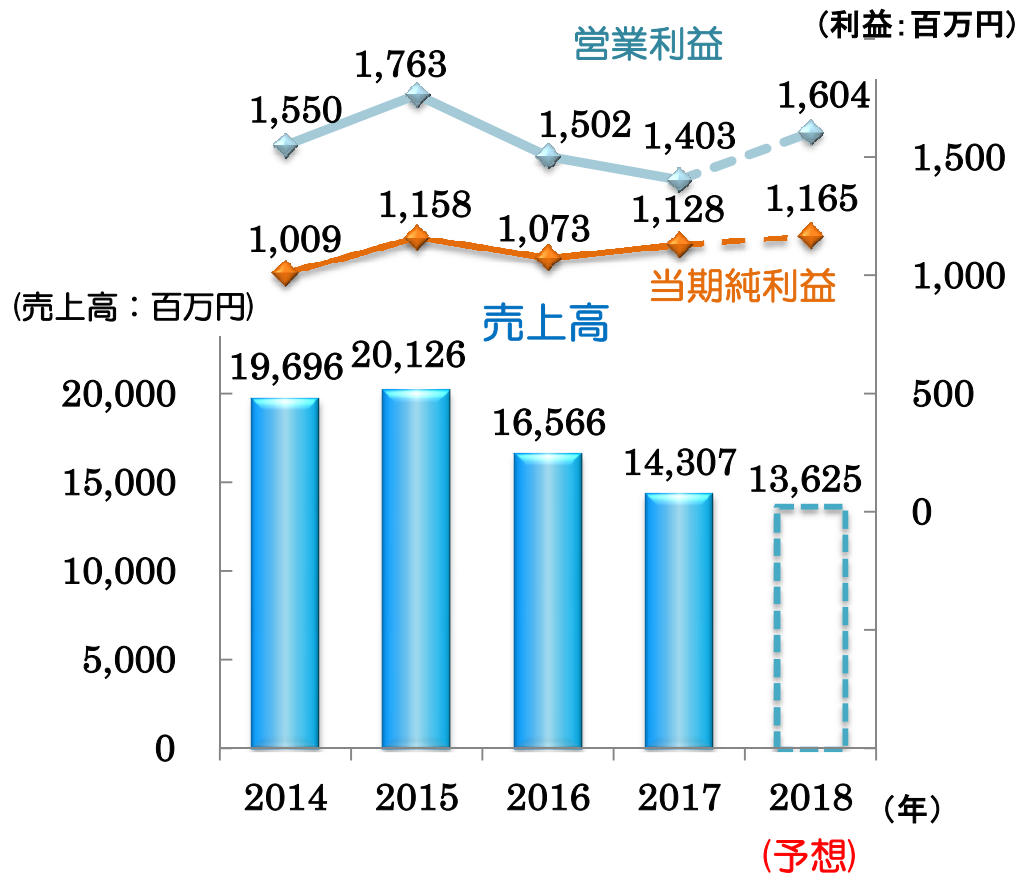
計画項目	前期比（単位：百万円）	
	2018 予想	2017 実績 増減率
■ 売上高	13,625	14,307 △4.8%
■ 売上総利益	3,634	3,440 5.6%
■ 販管費	2,030	2,037 △0.3%
■ 営業利益	1,604	1,403 14.3%
■ 営業外損益	59	73 △19.2%
■ 経常利益	1,663	1,476 12.7%
■ 当期純利益	1,165	1,128 3.3%

※想定為替レート：1USドル=105円



全社見通し

業績の推移（実績・予想）



【減収・増益 予想】

- ・ 売上高 前期比 Δ 4.8%
- ・ 営業利益 前期比 14.3%

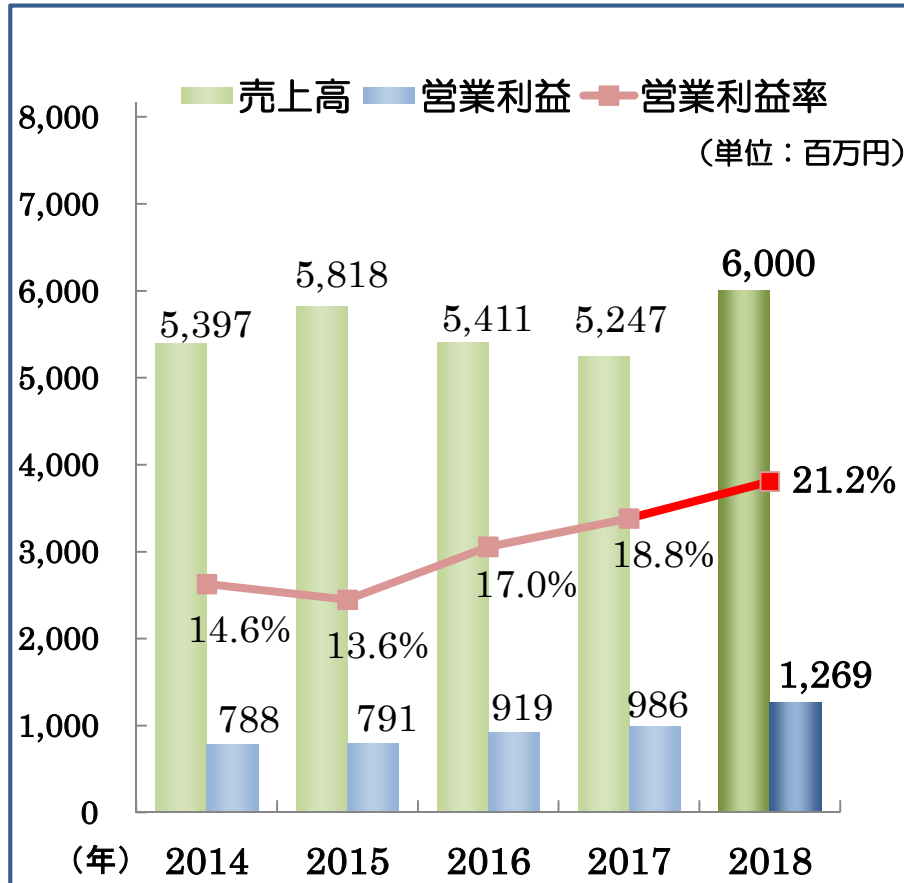
売上高の減少は引き続きPWBAの落ち込みの影響が大きいものの、利益面では利益率の高いSSP、サーマルが堅調であるため、全体の利益を押し上げている

- SSPは、Fシリーズや防爆型煙感知器等の高付加価値製品が牽引
- サーマルは、活況な半導体市場により熱板およびセンサーの販売が順調
- メディカルは、透析装置の原価改善と新規医療機器の販売に注力
- PWBAは、売上が減少している主要取引先からの受注が下げ止まる見込

2018年度 各セグメント別 業績見通し



SSP事業



重点施策

特殊防災分野のリーダーとして
高収益体質を確立する

- ・ Fシリーズの拡販に注力(IoT化に向けて)
- ・ 耐圧防爆型煙感知器の知名度向上
- ・ 電力等基幹産業向けガス消火設備および火災報知設備等の受注推進
- ・ メンテナンス営業の強化

防爆型煙感知器



Fシリーズ



吸引式超高感度煙検知 (SAS)





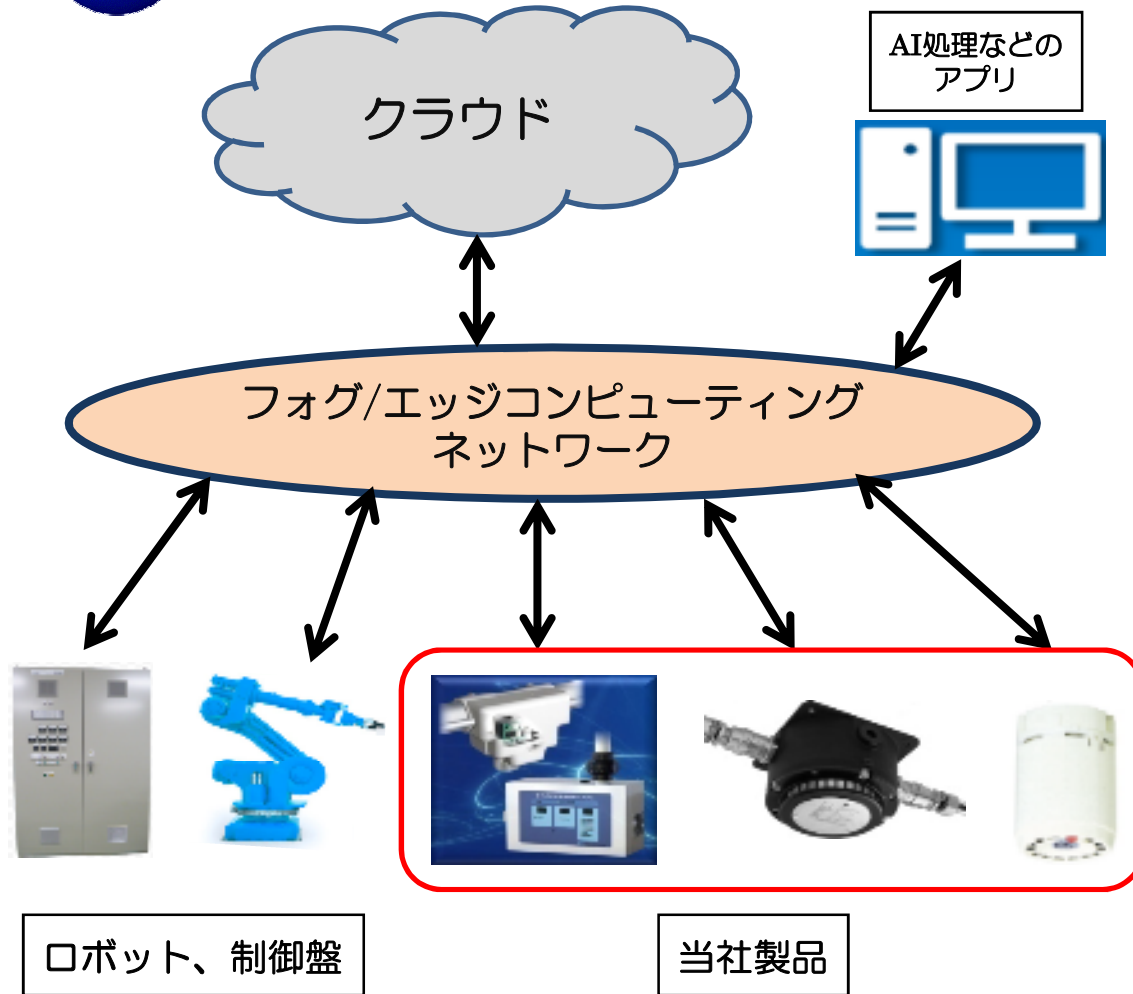
差別化された高付加価値の商品ラインアップ

- SSP事業は産業用特殊防災という市場に絞り込む事で他の競合メーカーと比べ売上高は小さいものの高い収益性を実現してきた。
- 差別化された製品の価値が市場に浸透し、引合が増加中。
- 下記1～5で特許5件取得、3件申請中。

	品名	型番	外観	発売日	設置例
1	世界初耐圧防爆型煙感知器	FLS-2E		2016年	石油、化学プラント 水素関連施設
2	世界最小の煙感知器 (Fシリーズ)	F11		2008年 ～2016年	半導体液晶製造装置 各種制御盤、分電盤
3	世界初吸引ファン内蔵の吸引式煙感知器 (Fシリーズ)	F1HQ		2013年	サーバー室 リチウム電池製造ライン 精密測定機
4	世界初吸引ファンを用いない吸引式煙感知器 (Fシリーズ)	新製品		2018年 上期予定	サーバー室 リチウム電池製造ライン 精密測定機
5	世界初アドレス付吸引式煙感知システム (Fシリーズ)	SAS		2011年	サーバー室 原発等の分電盤、制御盤 クリーンルーム
6	日本で当社のみ販売一爆発抑制システム	IEP			製鉄、化学プラント 食品、リサイクル施設



工場のIoTにおける小型煙感知器の位置づけ




日本フェンオールの煙感知器は小型のため、生産装置内の狭いところにも容易に設置でき、火災検知器として数多くの実績を持っている。そのため、工場内IoTの一員として他のIoT機器と協働し、工場内システムの予防保全に寄与することが期待できる。

入会済のIoTコンソーシアム
○FIELD system
○EDGECROSS コンソーシアム
○ロボット革命イニシアティブ協議会



工場のIoTに向けて開発中の新商品ラインアップ

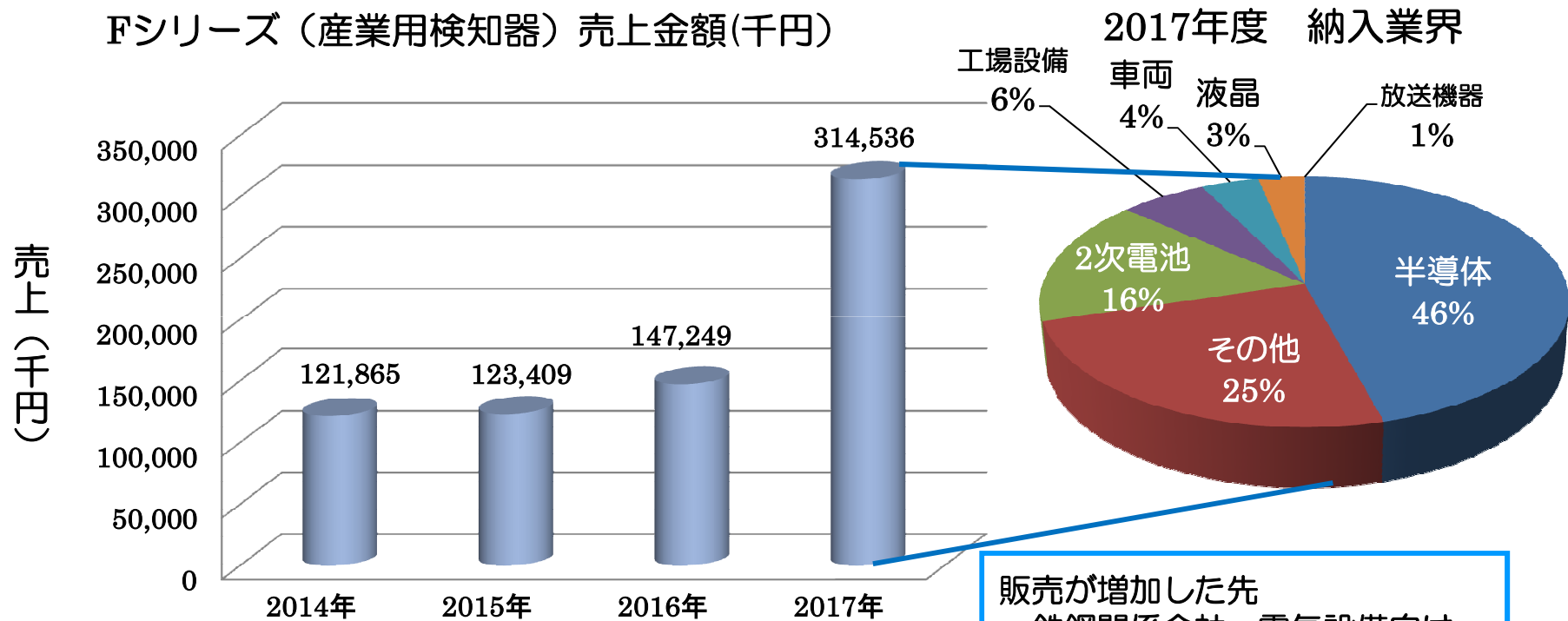
- 大きな需要が見込める工場のIoT分野に向けた新商品の開発に注力する。
- 制御盤、ロボット、電力盤などの工場生産装置の防災用という市場に絞り込み、差別化を図っていく。
- 現在ある3つのIoTソリューションに対応した商品化を進め、日本市場でのマーケットシェアを高める。

品名	特徴	外観	発売日	設置例
小型煙感知器 (Fiシリーズ)	小型ながら、有線LANまたは無線WiFiの機能を内蔵。ネットワークへ接続して煙情報をホストへ発信できる。		2018年 上期予定	搬送ロボット 電力制御盤 生産装置 通信機械など
アドレス付 吸引式煙感知システム (SAS-iシリーズ)	有線または無線WiFiでネットワークと接続ができる。 双方向性の通信により火災発生個所の特定、煙データの収集および感度設定が遠隔で可能。		2018年 10月予定	サーバー室 電力制御盤 生産装置 通信機械など
防爆型煙感知器 (FLS-iシリーズ)	工場内で有機溶剤、水素等を使用するなど防爆性能が求められる場所に設置し、ネットワーク接続により、煙情報をホスト受信機へ発信できる。		2018年 12月予定	有機溶剤等使用場所 水素関連施設



Fシリーズ（産業用検知器）の納入実績

Fシリーズ（産業用検知器）売上金額(千円)

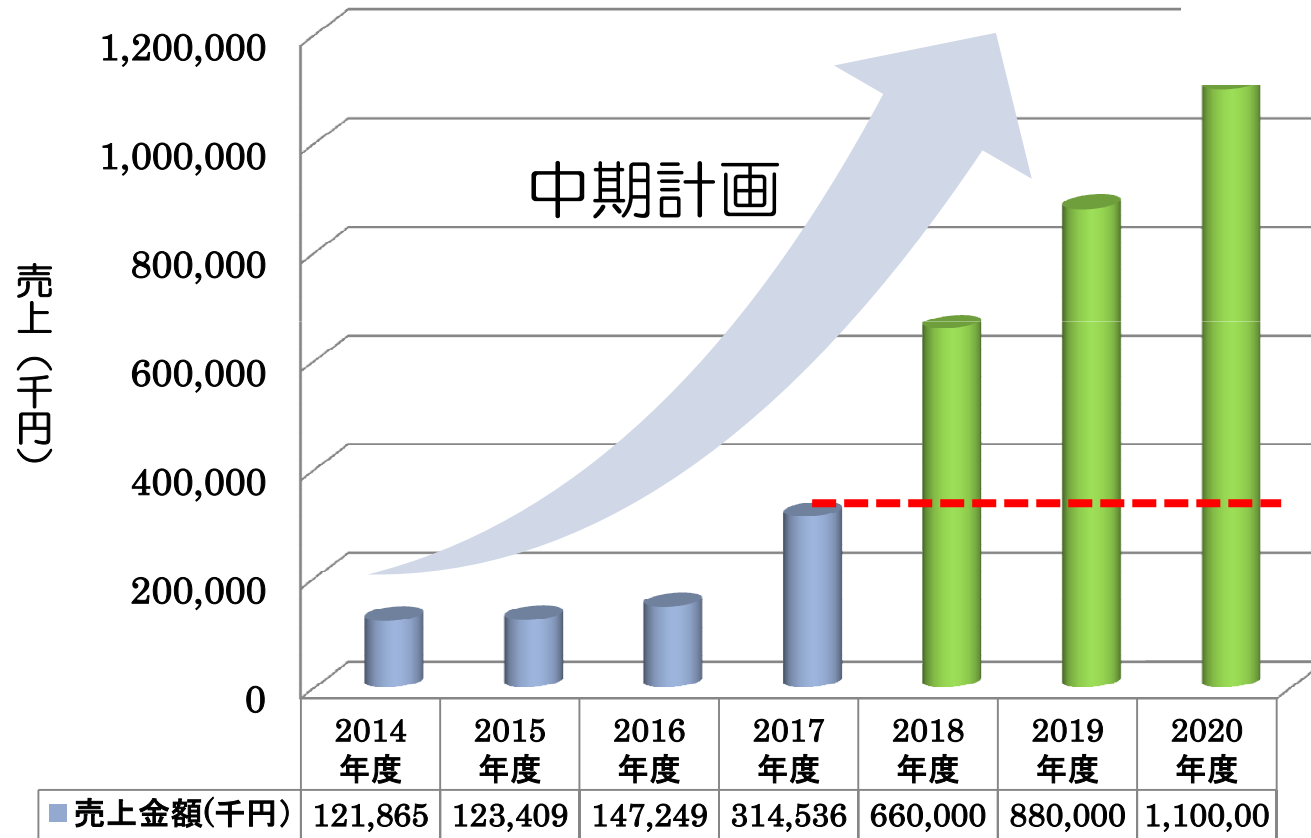


- 販売が増加した先
- ・鉄鋼関係会社 電気設備向け
 - ・海外車両向け
 - ・グローバル半導体メーカー向け
 - ・半導体製造装置メーカー向け
 - ・リチウム電池メーカー向け



Fシリーズ（産業用検知器） 中期計画推移

Fシリーズ（産業用検知器）中期3ヶ年売上目標



- 販売推進市場
- ・IoTシステム
センサーデバイス
（無線化の新機種投入）
 - ・電力基幹設備向け
 - ・工場予防保全向け
 - ・水素ステーション、
燃料電池、2次電池向け
 - ・半導体市場向け
 - ・車両・搬送機向け
 - ・危険物施設、ラック倉庫
 - ・海外向け
（韓国・台湾・中国等）



サーマル事業

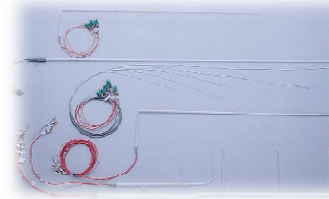


重点施策

好調な半導体市場に向け
熱板・熱センサー(熱電対)を拡販

- ・ 熱板の受注増へ対応するため
工場のオペレーター増強
- ・ 熱センサー(熱電対)の校正炉の追加等
生産拡大化への対応
- ・ 熱センサー(熱電対)受注拡大に向け
JCSS(計量法トレーサビリティ制度)の認定取得
- ・ 未開拓のデバイスメーカーへの営業攻勢

温度センサー

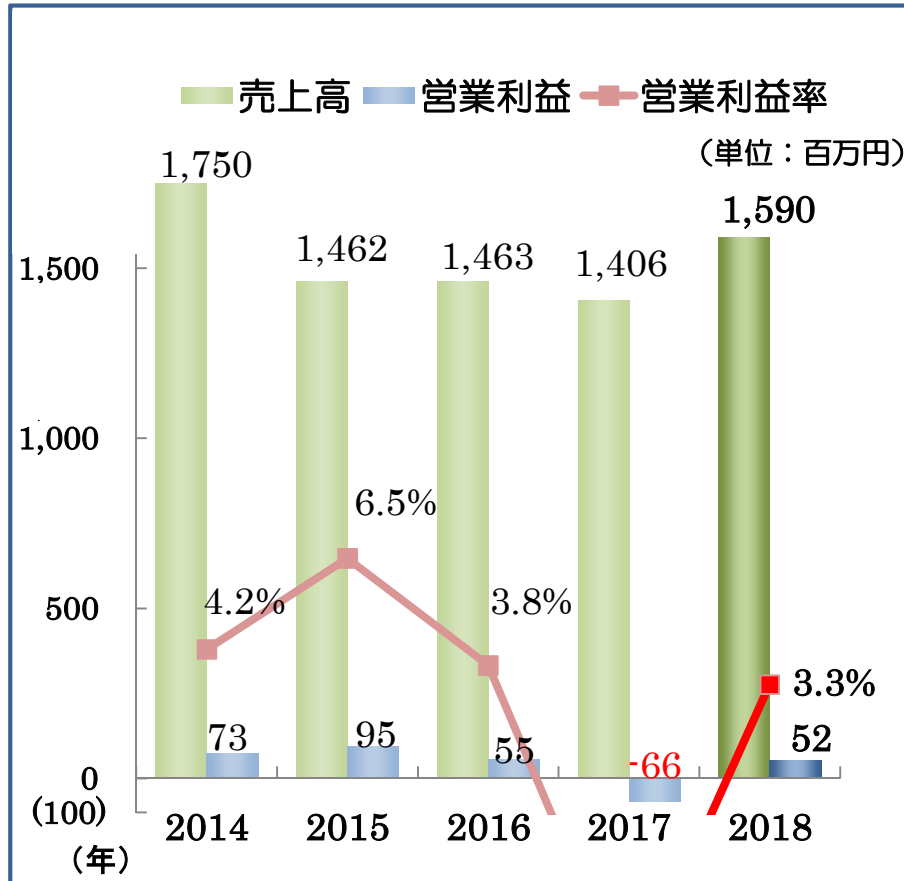


半導体製造装置用熱板





メディカル事業



重点施策

コストダウンによる採算性向上と
高採算の新規開発により営業黒字化

- ・ 透析装置の生産効率改善と原価低減
- ・ 透析装置の要素部品の販売拡大
- ・ 独自性のある新規医療機器開発
- ・ その他医療機器(脈波血圧計、アイツグシステム)の販売拡大

人工腎臓透析装置



冷温水機

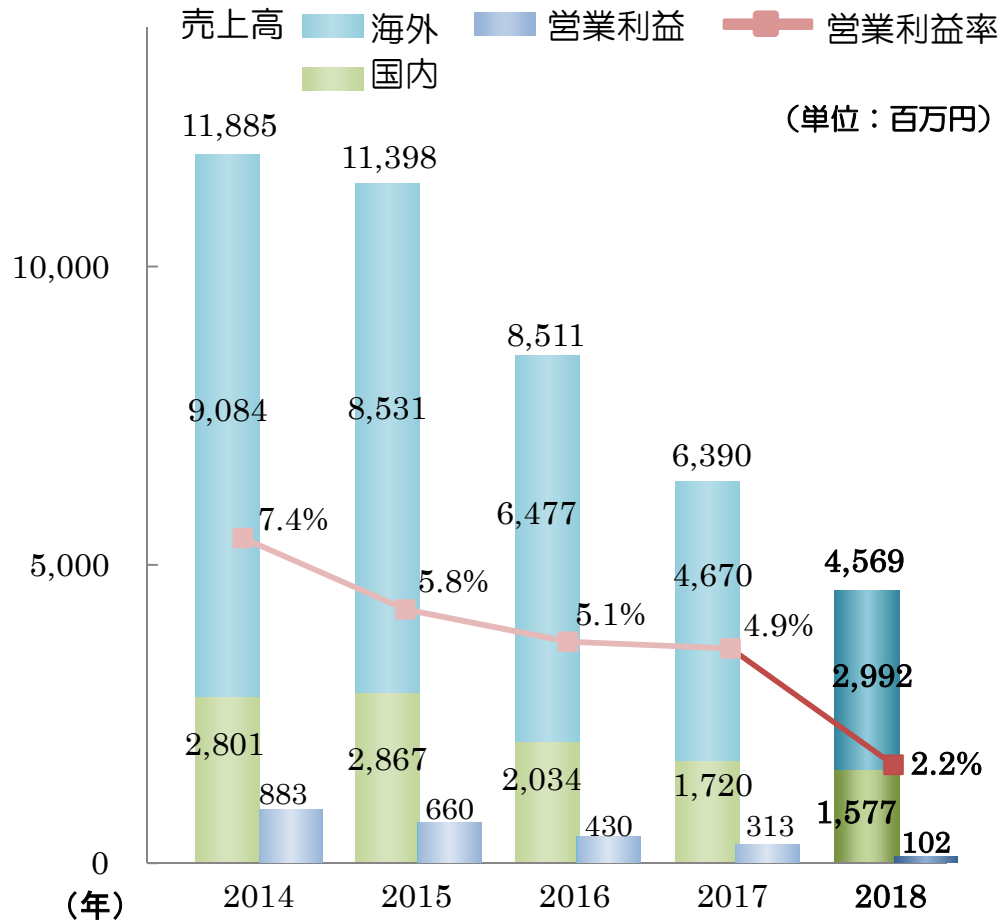


脈波血圧計





PWBA事業

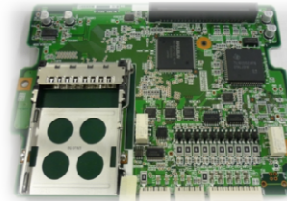


重点施策

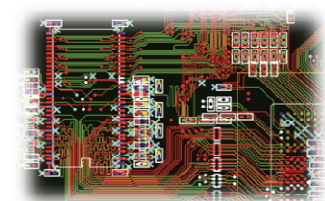
コストダウンと新規開拓により
営業利益を確保する

- ・長野工場での生産効率改善と購入部材費の圧縮等により徹底したコストダウンを図る
- ・新規開拓により一社依存型からの脱却
- ・ハイズ対策、回路設計、ネットワーク設計等の技術力やノウハウを活かした差別化を図る

プリント基板



基板パターン設計

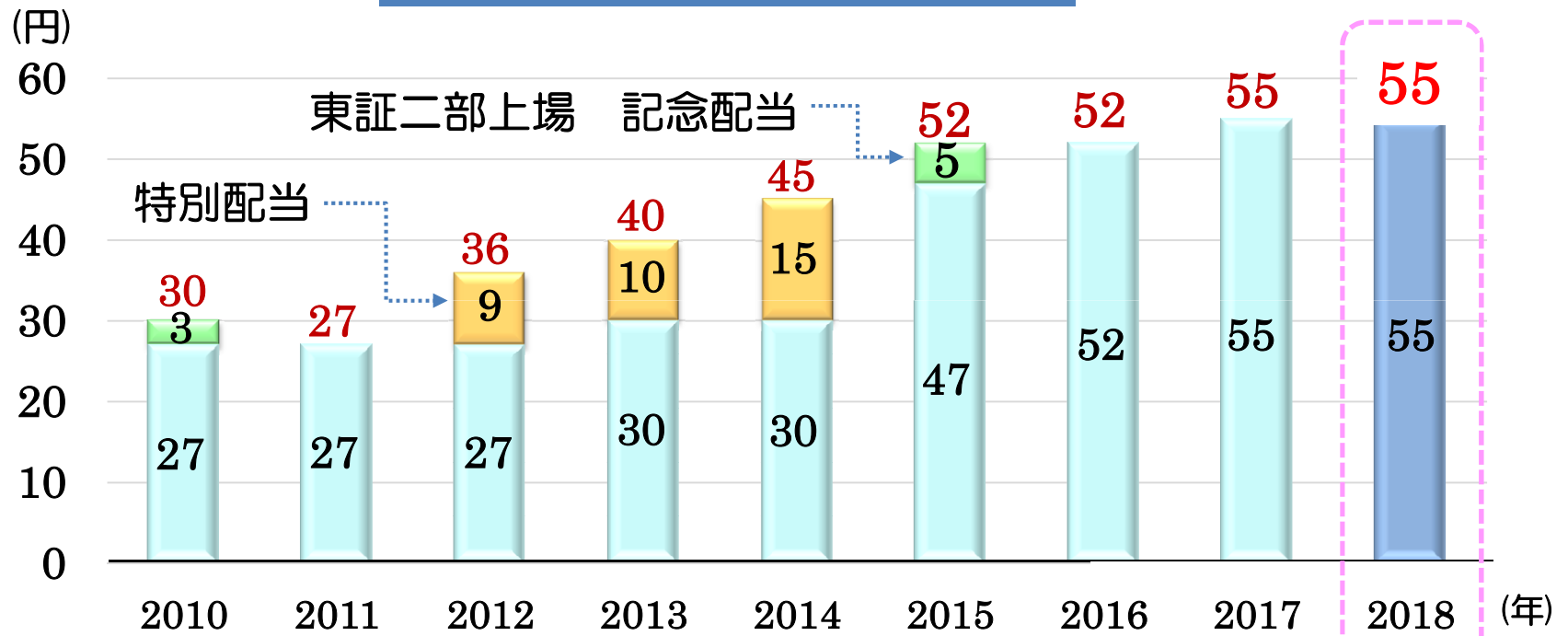


2018年度 配当について



配当金の推移

1株当たりの配当金推移

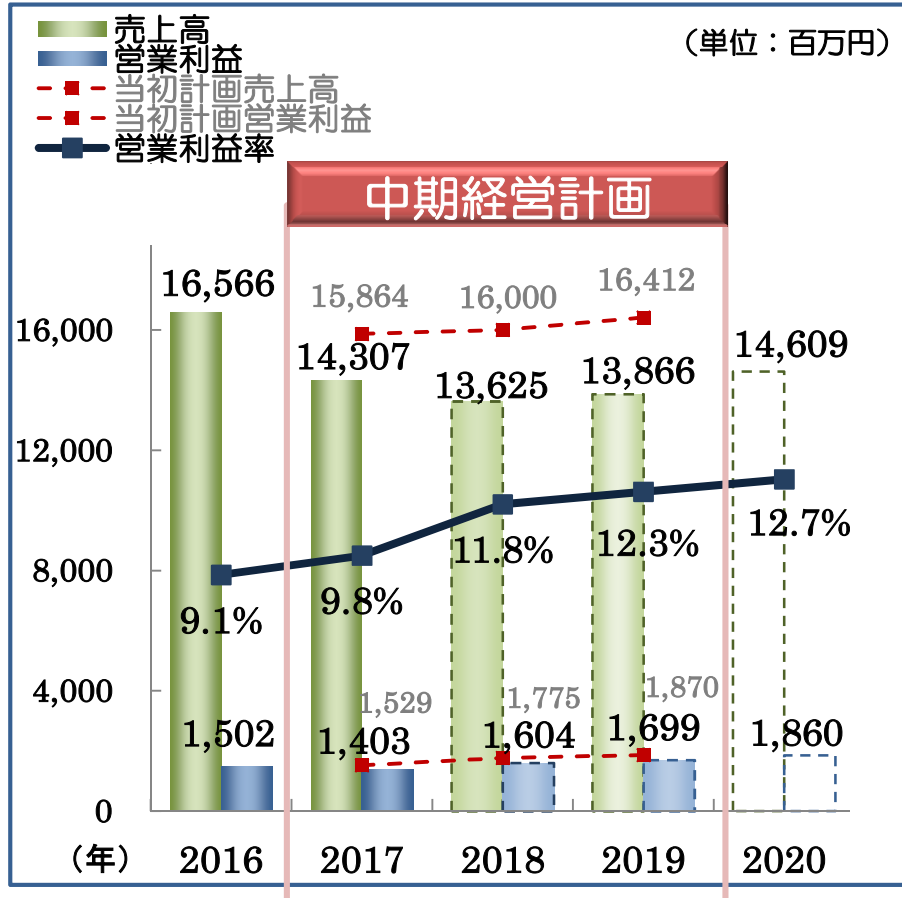


当期純利益 (百万円)	182	256	779	874	1,009	1,158	1,073	1,128	1,165
配当性向(%)	97.1	62.1	27.2	26.9	26.2	26.4	28.5	28.7	27.8

4. 中期 3 ヶ年経営計画 進捗



「2017-2019年度」中期経営計画（全体計画）



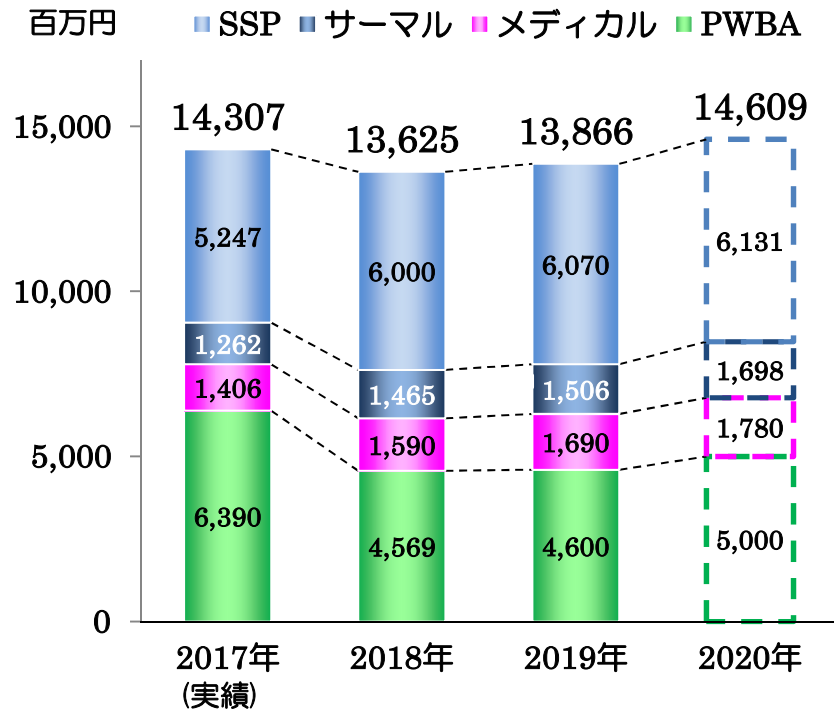
数値目標		
	2017年	2019年
売上高	14,307	13,866
営業利益	1,403	1,699
営業利益率	9.8%	12.3%

PWBAの売上減少の影響が大きく、売上高の拡大は見込めないものの、利益面では、SSPの差別化された高付加価値製品やサーマルの半導体市場向け製品など、利益率の高い事業が堅調に推移すると見込んでおり、営業利益率は高まる計画としている。

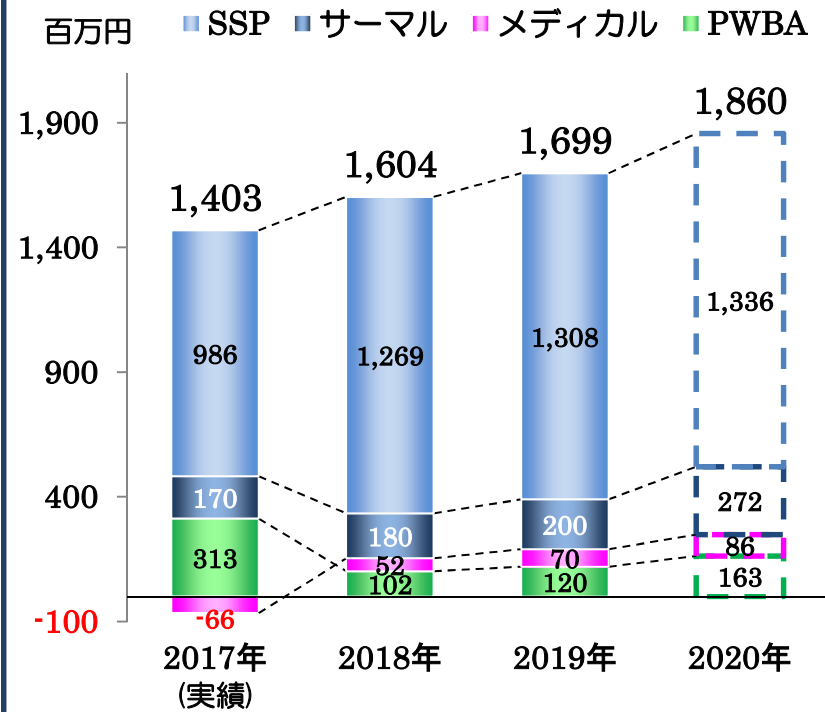


「2017-2019年度」中期経営計画（全体計画）

売上高



営業利益



中期 経営目標・配当政策・投資計画



投資計画

向こう3ヶ年において約30億円の投資を計画

研究開発	・ SSP : IoT関連技術	6.0億円
	・ サーマル : センシング技術	2.0億円
	・ メディカル : 医療技術	4.0億円
設備・建物	・ 工場建物 : 老朽化による建替・補修	10.0億円
	・ 研究施設 : 老朽化による建替・補修	5.0億円
	・ 生産設備 : 新規入替・補修	2.5億円
	・ 社内インフラ : ネットワーク構築、セキュリティ強化	1.0億円
人材育成	・ 新卒採用 : 定期採用(若干名/年)実施	3百万円/年
	・ 中途採用 : 人員構成の正常化(30代)	15百万円/年
	・ 教育訓練 : 幹部育成・階層研修	10百万円/年



中期 経営目標・配当政策

経営目標

- ・利益拡大に全力を傾注し、収益力の強化を図り、ROEの向上に努める

ROE目標値 12%以上
(2017年度 10.4%)

配当政策

- ・株主配当については、安定的な配当の継続を基本としつつ、収益状況を勘案して配当を行う

連結配当性向目標値 35%
(2017年度 28.7%)

※ 目標値は最終年度（2019年）

■ 注意事項

本資料に記載されている内容は、現時点で入手可能な情報に基づき、当社が作成したものでありますが、特に見通し情報等につきましては、市場環境、為替レート等々様々なリスクや不確実性を内包しておりますので、当社の予測とは異なる可能性があります。